

トランプ米大統領の憂鬱

「オバマケア」廃止と ロシア・ゲート捜査の混迷

国際ジャーナリスト

泉 洋海

「苛立ち」と「試金石」

トランプ米大統領の表情が冴えない。昨年の大統領選に絡み、ロシア政府が干渉したとされる疑惑を捜



オバマケア廃止に躍起のトランプ氏だが……（ホワイトハウス）

査する「ロシアゲート」では、トランプ氏本人の関与が焦点となっているが、この捜査を指揮する特別検察官ロバート・モラー氏の姿勢は厳しく、報道も追及の手を緩めない。

公約に掲げた、医療保険制度改革（オバマケア）の廃止を目指す代替法案は採決のメドが立たず、政権内では失脚したと見られていた側近のバノン氏が復活し、権力争いが激しくなりそうだ。トランプ氏の憂鬱は続く。

「（自らが罷免したコミー元FBI長官と）非常に仲のよい友達で厄介だ」――。

トランプ氏はこのほど放送された米FOXニュースで、大統領選のロシア関与疑惑に関し、捜査を統括するモラー氏のことをそんな風に揶揄した。さらに、同氏が昨年の大統領選で、トランプ氏と戦って敗れたヒラリー・クリントン元国務長官の支持者を雇

っているとして「ばかっている」などと述べ、公平性に疑義があるかのような発言も。

罷免するかとの問いには「見ていかねばならない」と述べた。

モラー氏はコミー氏の前任のFBI長官で、コミー氏は副長官としてモラー氏を支えた経緯がある。公平な硬骨漢と評価の高いモラー氏による追及が、トランプ氏を追い詰める結果となるとの見立てもある。

この発言を受け、ホワイトハウス報道官は「トランプ大統領には特別検査官を解任する権限があるが、そうするつもりはない」と火消しに追われた。

さらに、トランプ氏は連日ロシア疑惑で追及を強める報道各社に対し、会見の回数や映像の放映、録音の制限を始めた。これもトランプ氏のいらだちと焦りが表出したものと言えるだろう。

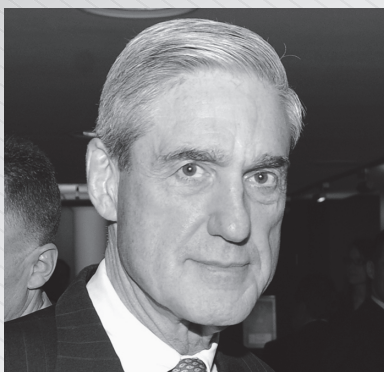
一方、上院共和党はオバマケアの廃止を目指し、代替法案の素案を発表した。オバマケア廃止は、選挙戦でトランプ氏が掲げた目玉公約の一つだ。

オバマケアはオバマ前大統領が実現させた主要施策で、最低限必要な民間医療保険への加入を義務化するもの。政府が補助金を支給して、低所得者も保険に加入できるようにした。

当初から「小さな政府」を目指す共和党からは猛反発され、「ティーパーティー（茶会）」などの政治運動も生まれた。2010年に法が成立し、2014年には本格運用がスタートした。

公約でオバマケア廃止を訴えたトランプ氏は、大統領就任後の1月、早速これを見直す大統領令を出す。

6月には「オバマケアは死んだ」とツイッターでつぶやき、上院が提出



ロバート・モラー特別検察官（FBI）



振り返ったパノン氏

代替法案を成立させないと、税制改革などの議論が始まらない。まさに、代替法案はトランプ政権の今後を占う試金石と言える。

親族組の劣勢とパノン氏復活

さて、驚いたことに、トランプ氏のシリア爆撃に反対し、左遷されていた側近、ステイブ・パノン氏が政権の中枢に振り返ったようだ。

パノン氏と言えば、過激な発言で知られる。そして、選挙中はトランプ氏の「米国はシリアから撤退すべき」「既得権益層から権限を取り戻す」といった主張のバックグラウンドとなった。

中東からの撤退は、中東と利害関係があるロシアとの関係改善をも狙うパノン氏の主張に沿う。

しかし、グローバルリストであるトランプ氏の愛娘イヴァンカ氏やその夫クシュナー氏は、シリア攻撃の必要性を主張。トランプ氏はこれを受け入れ、シリア攻撃を実行した。

これに反対したパノン氏は親族との権力闘争に敗れ、左遷された状態になった。

トランプ氏を支える権力は、イヴァンカ氏とクシュナー氏ら親族と、マ

イク・ペンス副大統領ら共和党人脈、パノン氏ら反エスタブリッシュメントでトランプ氏の思想を形づくる人達の3つの流れがあり、互いに競っているという。

共和党人脈には大きな変化はなさそうだが、トランプ氏の右腕となってきたクシュナー氏が、大統領選にロシア政府が干渉した疑惑に絡み、ロシアの外交官に極秘の通信ルート開設を持ちかけたのではないかと、疑いがかかっており、議会に召喚される可能性もある。

この影響もあり、同氏はホワイトハウス内の権力闘争で不利な立場に立たされそう。

親族組のパワー低下に伴い浮揚して来たのがパノン氏。トランプ氏はロシア疑惑で大手マスコミから攻撃を受ける中、メディア対策などにパノン氏の力を借りたようである。新設する「司令室」なるものの参加が決まっているという。政権への完全復活を果たしたと言える。

政権内で刻々と変化するパワーバランス。「影の大統領」などと形容される強引なパノン氏の復活が、トランプ政権にプラスとなるのか、マイナスとなるのかは見通せない。

した医療保険制度改革法の代替法案を支持した。

代替法案は、国民に課せられた保険への加入義務を撤廃し、低所得者向け保険への補助金を減らすのが柱だが、成立へのスケジュールは遅れている。

そもそも3月、共和党が代替案を下院に提案したが、党内では意見が分かれた。

国による補助金給付を嫌う保守派と、オバマケアを廃止した際に発生すると思われる、大量の無保険者を懸念する穏健派とが対立。党幹部は意見を調整できず、採決にすらこぎ着けることができなかった。

5月によりやく下院で修正案を通過させたが、票数は賛成217、反対213とギリギリ。共和党からは

20人もの造反者を出した。

定数100の上院で共和党の議席は52。多くの造反者が出れば、法案の通過は極めて厳しくなる。テッド・クルーズ上院議員は「現時点では賛成できない」。

だが、交渉の余地はある」と発言。とは言え、党幹部が指導力を発揮し、妥協案に導けるかどうかは不透明だ。オバマケアの廃止はトランプ氏にとつて重要な公約であり、悲願だ。これが通らなければ、トランプ氏の支持者の離反を招きかねないだけでなく、これを通せない議会の力不足にも批判が及ぶ。来年の中間選挙への影響も小さくない。

さらに、トランプ氏はオバマケア廃止で削減した財源を減税などに当てて見込みだ。